

新旧対照表（品質管理基準）

旧（令和4年10月）	新（令和5年10月）	摘要
<p>1 セメント・コンクリート（転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く）</p> <p>〔試験項目〕</p> <p>骨材のふるい分け試験</p> <p>〔試験方法〕</p> <p>JIS A 5011-1～4</p>	<p>1 セメント・コンクリート（転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付け</p> <p>〔試験項目〕</p> <p>骨材のふるい分け試験</p> <p>〔試験方法〕</p> <p>JIS A 5011-1～5</p>	
<p>〔試験項目〕</p> <p>骨材の密度及び吸水率試験</p> <p>〔試験方法〕</p> <p>JIS A 5011-1～4</p> <p>〔摘要〕</p> <p>JIS A 5005(コンクリート用砕砂及び砕石)</p> <p>JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材－第1部：高炉スラグ骨材)</p> <p>JIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材－第2部：フェロニッケルスラグ骨材)</p> <p>JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材－第3部：銅スラグ骨材)</p> <p>JIS A 5011-4 (コンクリート用スラグ骨材－第4部：電気路酸化スラグ骨材)</p> <p>JIS A 5021 (コンクリート用再生骨材 H)</p>	<p>〔試験項目〕</p> <p>骨材の密度及び吸水率試験</p> <p>〔試験方法〕</p> <p>JIS A 5011-1～5</p> <p>〔摘要〕</p> <p>JIS A 5005(コンクリート用砕砂及び砕石)</p> <p>JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材－第1部：高炉スラグ骨材)</p> <p>JIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材－第2部：フェロニッケルスラグ骨材)</p> <p>JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材－第3部：銅スラグ骨材)</p> <p>JIS A 5011-4 (コンクリート用スラグ骨材－第4部：電気路酸化スラグ骨材)</p> <p>JIS A 5011-5 (コンクリート用スラグ骨材－第5部：石炭ガス化スラグ骨材)</p> <p>JIS A 5021 (コンクリート用再生骨材 H)</p>	
<p>〔試験項目〕</p> <p><del>ポルトランドセメント</del>の化学分析</p>	<p>〔試験項目〕</p> <p><del>ポルトランド</del>セメントの化学分析</p>	
<p>記載なし</p>	<p>〔試験項目〕</p> <p>セメントの水和熱測定</p> <p>〔試験方法〕</p> <p>JIS R 5203</p>	

新旧対照表（品質管理基準）

旧（令和4年10月）	新（令和5年10月）	摘要
	<p>〔規格値〕</p> <p>JIS R 5210（ポルトランドセメント）</p> <p>JIS R 5211（高炉セメント）</p> <p>JIS R 5213（フライアッシュセメント）</p> <p>〔試験時期・頻度〕</p> <p>工事開始前、工事中1回/月以上</p> <p>〔試験成表等による確認〕</p> <p>○</p>	
記載なし	<p>〔試験項目〕</p> <p>セメントの蛍光X線分析方法</p> <p>〔試験方法〕</p> <p>JIS R 5204</p> <p>〔規格値〕</p> <p>JIS R 5210（ポルトランドセメント）</p> <p>JIS R 5211（高炉セメント）</p> <p>JIS R 5214（エコセメント）</p> <p>〔試験時期・頻度〕</p> <p>工事開始前、工事中1回/月以上</p> <p>〔試験成表等による確認〕</p> <p>○</p>	
<p>〔試験項目〕</p> <p>塩化物総量規制</p> <p>〔試験方法〕</p> <p>「コンクリートの耐久性向上」</p>	<p>〔試験項目〕</p> <p>塩化物総量規制</p> <p>〔試験方法〕</p> <p>「コンクリートの耐久性向上」 仕様書</p>	

新旧対照表（品質管理基準）

旧（令和4年10月）	新（令和5年10月）	摘要
<p>〔試験項目〕 単位水量測定</p> <p>〔試験時期・頻度〕 100m<sup>3</sup>／日以上の場合； 2回／日（午前1回、午後1回）以上、重要構造物の場合は重要度に応じて、100m<sup>3</sup>～150m<sup>3</sup>ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められたときとし、測定回数は多い方を採用する。</p>	<p>〔試験項目〕 単位水量測定</p> <p>〔試験時期・頻度〕 100m<sup>3</sup>／日以上の場合； 2回／日（午前1回、午後1回）以上、重要構造物の場合は重要度に応じて、100m<sup>3</sup>～150m<sup>3</sup>ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められたときとし、測定回数は多い方を採用する。</p>	
<p>〔試験項目〕 テストハンマーによる強度推定調査</p> <p>〔試験時期・頻度〕 鉄筋コンクリート擁壁及びカルバート類で行う。その他の構造物については強度が同じブロックを1構造物の単位とし、各単位につき3カ所の調査を実施。また、調査の結果、平均値が設計基準強度を下回った場合と、1回の試験結果が設計基準強度の85%以下となった場合は、その箇所の周辺において、再調査を5カ所実施。 材齢28日～91日の間に試験を行う。</p>	<p>〔試験項目〕 テストハンマーによる強度推定調査</p> <p>〔試験時期・頻度〕 鉄筋コンクリート擁壁及びカルバート類については目地間、その他の構造物については強度が同じブロックを1構造物の単位とし、各単位につき3カ所の調査を実施する。また、調査の結果、平均値が設計基準強度を下回った場合と、1回の試験結果が設計基準強度の85%以下となった場合は、その箇所の周辺において、再調査を5カ所実施。 材齢28日～91日の間に試験を行う。</p>	
<p>4. プレキャストコンクリート製品（その他）</p> <p>〔試験項目〕 コンクリートの塩化物総量規制</p> <p>〔試験方法〕 「コンクリートの耐久性向上」</p>	<p>4. プレキャストコンクリート製品（その他）</p> <p>〔試験項目〕 コンクリートの塩化物総量規制</p> <p>〔試験方法〕 「コンクリートの耐久性向上」 <b>仕様書</b></p>	
<p>〔試験項目〕 骨材のふるい分け試験（粒度・粗粒率）</p>	<p>〔試験項目〕 骨材のふるい分け試験（粒度・粗粒率）</p>	

新旧対照表（品質管理基準）

旧（令和4年10月）	新（令和5年10月）	摘要
<p>〔試験方法〕 JIS A 5011-1～4</p>	<p>〔試験方法〕 JIS A 5011-1～5</p>	
<p>〔試験項目〕 骨材の密度及び吸水率試験</p> <p>〔試験方法〕 JIS A 5011-1～4</p> <p>〔摘要〕 JIS A 5005（コンクリート用砕石及び砕砂） JIS A 5011-1（コンクリート用スラグ骨材－第1部：高炉スラグ骨材） JIS A 5011-2（コンクリート用スラグ骨材－第2部：フェロニッケルスラグ細骨材） JIS A 5011-3（コンクリート用スラグ骨材－第3部：銅スラグ細骨材） JIS A 5011-4（コンクリート用スラグ骨材－第4部：電気炉酸化スラグ細骨材） JIS A 5021（コンクリート用再生骨材H）</p>	<p>〔試験項目〕 骨材の密度及び吸水率試験</p> <p>〔試験方法〕 JIS A 5011-1～5</p> <p>〔摘要〕 JIS A 5005（コンクリート用砕石及び砕砂） JIS A 5011-1（コンクリート用スラグ骨材－第1部：高炉スラグ骨材） JIS A 5011-2（コンクリート用スラグ骨材－第2部：フェロニッケルスラグ細骨材） JIS A 5011-3（コンクリート用スラグ骨材－第3部：銅スラグ細骨材） JIS A 5011-4（コンクリート用スラグ骨材－第4部：電気炉酸化スラグ細骨材） <b>JIS A 5011-5（コンクリート用スラグ骨材－第5部：石炭ガス化スラグ骨材）</b> JIS A 5021（コンクリート用再生骨材H）</p>	
<p>14 アスファルト舗装</p> <p>〔試験項目〕 フィラーの粒度試験</p>	<p>14 アスファルト舗装</p> <p>〔試験項目〕 フィラー（<b>舗装用石灰石粉</b>）の粒度試験</p>	
<p>〔試験項目〕 フィラーの水分試験</p>	<p>〔試験項目〕 フィラー（<b>舗装用石灰石粉</b>）の水分試験</p>	
<p>〔試験項目〕 温度測定（初期転圧）</p> <p>〔規格値〕 110℃以上</p>	<p>〔試験項目〕 温度測定（初期転圧）</p> <p>〔規格値〕 110℃以上</p>	

新旧対照表（品質管理基準）

旧（令和4年10月）	新（令和5年10月）	摘要
	<p>※ただし、混合物の種類によって敷均しが困難な場合や、中温化技術により施工性を改善した混合物を使用する場合、締固め効果の高いローラを使用する場合などは、所定の締固め度が得られる範囲で、適切な温度を設定</p>	
<p>15 転圧コンクリート</p> <p>〔試験項目〕</p> <p>ミキサの練混ぜ性能試験</p> <p>〔規格値〕</p> <p>コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合：</p> <p>コンクリート中のモルタル量の偏差率：0.8%以下</p> <p>コンクリート中の単位粗骨材量の偏差率：5%以下</p> <p>圧縮強度偏差率：7.5%以下</p> <p>コンクリート内の空気量偏差率：10%以下</p> <p>コンシステンシー（スランプ）偏差率：15%以下</p>	<p>15 転圧コンクリート</p> <p>〔試験項目〕</p> <p>ミキサの練混ぜ性能試験</p> <p>〔規格値〕</p> <p>コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合：</p> <p>コンクリート内のモルタル量の偏差率：0.8%以下</p> <p>コンクリート内の単位粗骨材量の偏差率：5%以下</p> <p>圧縮強度偏差率：7.5%以下</p> <p>コンクリート内の空気量偏差率：10%以下</p> <p>コンシステンシー（スランプ）偏差率：15%以下</p>	
<p>16 グースアスファルト舗装</p> <p>〔試験項目〕</p> <p>フィラーの粒度試験</p>	<p>16 グースアスファルト舗装</p> <p>〔試験項目〕</p> <p>フィラー（舗装用石灰石粉）の粒度試験</p>	
<p>〔試験項目〕</p> <p>フィラーの水分試験</p>	<p>〔試験項目〕</p> <p>フィラー（舗装用石灰石粉）の水分試験</p>	
<p>22 吹付工</p> <p>〔試験項目〕</p> <p>骨材のふるい分け試験</p> <p>〔試験方法〕</p> <p>JIS A 5011-1～4</p>	<p>22 吹付工</p> <p>〔試験項目〕</p> <p>骨材のふるい分け試験</p> <p>〔試験方法〕</p> <p>JIS A 5011-1～5</p>	
<p>〔試験項目〕</p>	<p>〔試験項目〕</p>	

新旧対照表（品質管理基準）

旧（令和4年10月）	新（令和5年10月）	摘要
<p>骨材の密度及び吸水率試験</p> <p>〔試験方法〕</p> <p>JIS A 5011-1～<del>4</del></p> <p>〔摘要〕</p> <p>JIS A 5005（コンクリート用砕砂及び砕石）</p> <p>JIS A 5011-1（コンクリート用スラグ骨材－第1部：高炉スラグ骨材）</p> <p>JIS A 5011-2（コンクリート用スラグ骨材－第2部：フェロニッケルスラグ細骨材）</p> <p>JIS A 5011-3（コンクリート用スラグ骨材－第3部：銅スラグ細骨材）</p> <p>JIS A 5011-4（コンクリート用スラグ骨材－第4部：電気路酸化スラグ骨材）</p> <p>JIS A 5021（コンクリート用再生骨材H）</p>	<p>骨材の密度及び吸水率試験</p> <p>〔試験方法〕</p> <p>JIS A 5011-1～<del>5</del></p> <p>〔摘要〕</p> <p>JIS A 5005（コンクリート用砕砂及び砕石）</p> <p>JIS A 5011-1（コンクリート用スラグ骨材－第1部：高炉スラグ骨材）</p> <p>JIS A 5011-2（コンクリート用スラグ骨材－第2部：フェロニッケルスラグ細骨材）</p> <p>JIS A 5011-3（コンクリート用スラグ骨材－第3部：銅スラグ細骨材）</p> <p>JIS A 5011-4（コンクリート用スラグ骨材－第4部：電気路酸化スラグ骨材）</p> <p><del>JIS A 5011-5（コンクリート用スラグ骨材－第5部：石炭ガス化スラグ骨材）</del></p> <p>JIS A 5021（コンクリート用再生骨材H）</p>	
<p>〔試験項目〕</p> <p>塩化物総量規制</p> <p>〔試験方法〕</p> <p>「コンクリートの耐久性向上」</p>	<p>〔試験項目〕</p> <p>塩化物総量規制</p> <p>〔試験方法〕</p> <p>「コンクリートの耐久性向上」 <del>仕様書</del></p>	
<p>〔試験項目〕</p> <p>コンクリートの圧縮強度試験</p> <p>〔試験方法〕</p> <p>JIS A 1107</p> <p>JIS A 1108</p> <p>土木学会規準 JSCE</p> <p>F561-2013</p>	<p>〔試験項目〕</p> <p>コンクリートの圧縮強度試験</p> <p>〔試験方法〕</p> <p>JIS A 1107</p> <p>JIS A 1108</p> <p>土木学会規準 JSCE-</p> <p>F561-2013</p>	
<p>23 現場吹付法枠工</p>	<p>23 現場吹付法枠工</p>	

新旧対照表（品質管理基準）

旧（令和4年10月）	新（令和5年10月）	摘要
<p>〔試験項目〕 骨材のふるい分け試験</p> <p>〔試験方法〕 JIS A 5011-1～<del>4</del></p>	<p>〔試験項目〕 骨材のふるい分け試験</p> <p>〔試験方法〕 JIS A 5011-1～<del>4</del><b>5</b></p>	
<p>〔試験項目〕 骨材の密度及び吸水率試験</p> <p>〔試験方法〕 JIS A 5011-1～<del>4</del></p> <p>〔摘要〕 JIS A 5005（コンクリート用砕砂及び砕石） JIS A 5011-1（コンクリート用スラグ骨材－第1部：高炉スラグ骨材） JIS A 5011-2（コンクリート用スラグ骨材－第2部：フェロニッケルスラグ細骨材） JIS A 5011-3（コンクリート用スラグ骨材－第3部：銅スラグ細骨材） JIS A 5011-4（コンクリート用スラグ骨材－第4部：電気路酸化スラグ骨材） JIS A 5021（コンクリート用再生骨材H）</p>	<p>〔試験項目〕 骨材の密度及び吸水率試験</p> <p>〔試験方法〕 JIS A 5011-1～<del>4</del><b>5</b></p> <p>〔摘要〕 JIS A 5005（コンクリート用砕砂及び砕石） JIS A 5011-1（コンクリート用スラグ骨材－第1部：高炉スラグ骨材） JIS A 5011-2（コンクリート用スラグ骨材－第2部：フェロニッケルスラグ細骨材） JIS A 5011-3（コンクリート用スラグ骨材－第3部：銅スラグ細骨材） JIS A 5011-4（コンクリート用スラグ骨材－第4部：電気路酸化スラグ骨材） <del>JIS A 5011-5（コンクリート用スラグ骨材－第5部：石炭ガス化スラグ骨材）</del> JIS A 5021（コンクリート用再生骨材H）</p>	
<p>〔試験項目〕 コンクリートの圧縮強度試験</p> <p>〔試験方法〕 JIS A 1107 JIS A 1108 土木学会規準 JSCE F561-2013</p>	<p>〔試験項目〕 コンクリートの圧縮強度試験</p> <p>〔試験方法〕 JIS A 1107 JIS A 1108 土木学会規準 JSCE- F561-2013</p>	

新旧対照表（品質管理基準）

旧（令和4年10月）	新（令和5年10月）	摘要
<p>〔試験項目〕 塩化物総量規制</p> <p>〔試験方法〕 「コンクリートの耐久性向上」</p>	<p>〔試験項目〕 塩化物総量規制</p> <p>〔試験方法〕 「コンクリートの耐久性向上」 <b>仕様書</b></p>	
<p>27 道路土工</p> <p>〔試験項目〕 現場密度の測定※右記試験方法（3種類）のいずれかを実施する。</p> <p>〔規格値〕</p> <p><b>【砂質土】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・路体：次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の90%以上（締固め試験（JIS A 1210）A・B法）。</li> <li>・路床及び構造物取付け部：次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の95%以上（締固め試験（JIS A 1210）A・B法）もしくは90%以上（締固め試験（JIS A 1210）C・D・E法）</li> </ul> <p><b>【粘性土】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・路体：自然含水比またはトラフィカビリティ<del>ー</del>が確保できる含水比において、空気間隙率 <math>V_a</math> が <math>2\% \leq V_a \leq 10\%</math> または飽和度 <math>S_r</math> が <math>85\% \leq S_r \leq 95\%</math></li> <li>・路床及び構造物取付け部：トラフィカビリティ<del>ー</del>が確保できる含水比において、空気間隙率 <math>V_a</math> が <math>2\% \leq V_a \leq 8\%</math></li> </ul> <p>ただし、締固め管理が可能な場合は、砂質土の基準を適用することができる。その他、設計図書による。</p>	<p>27 道路土工</p> <p>〔試験項目〕 現場密度の測定※右記試験方法（3種類）のいずれかを実施する。</p> <p>〔規格値〕</p> <p><b>【砂質土】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・路体：次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の90%以上（締固め試験（JIS A 1210）A・B法）。</li> <li>・路床及び構造物取付け部：次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の95%以上（締固め試験（JIS A 1210）A・B法）もしくは90%以上（締固め試験（JIS A 1210）C・D・E法）</li> </ul> <p><b>【粘性土】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・路体：自然含水比またはトラフィカビリティ<del>ー</del>が確保できる含水比において、空気間隙率 <math>V_a</math> が <math>2\% \leq V_a \leq 10\%</math> または飽和度 <math>S_r</math> が <math>85\% \leq S_r \leq 95\%</math></li> <li>・路床及び構造物取付け部：トラフィカビリティ<del>ー</del>が確保できる含水比において、空気間隙率 <math>V_a</math> が <math>2\% \leq V_a \leq 8\%</math></li> </ul> <p>ただし、締固め管理が可能な場合は、砂質土の基準を適用することができる。その他、設計図書による。</p>	
<p>〔試験項目〕 現場密度の測定※右記試験方法（3種類）のいずれかを実施する</p> <p>〔規格値〕</p>	<p>〔試験項目〕 現場密度の測定※右記試験方法（3種類）のいずれかを実施する</p> <p>〔規格値〕</p>	



新旧対照表（品質管理基準）

旧（令和4年10月）	新（令和5年10月）	摘要
<p><b>【砂質土】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>路体：次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥度密度の92%以上（締固め試験（JIS A 1210）A・B法）。</li> <li>路床及び構造物取付け部：次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥度密度の97%以上（締固め試験（JIS A 1210）A・B法）もしくは92%以上（締固め試験（JIS A 1210）C・D・E法）。</li> </ul> <p><b>【粘性土】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>路体、路床及び構造物取付け部：自然含水比またはトラフィカビリティーが確保できる含水比において、1管理単位の現場空気間隙率の平均値が8%以下。ただし、締固め管理が可能な場合は、砂質土の基準を適用することができる。又は、設計図書による。</li> </ul>	<p><b>【砂質土】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>路体：次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥度密度の92%以上（締固め試験（JIS A 1210）A・B法）。</li> <li>路床及び構造物取付け部：次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥度密度の97%以上（締固め試験（JIS A 1210）A・B法）もしくは92%以上（締固め試験（JIS A 1210）C・D・E法）。</li> </ul> <p><b>【粘性土】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>路体、路床及び構造物取付け部：自然含水比またはトラフィカビリティーが確保できる含水比において、1管理単位の現場空気間隙率の平均値が8%以下。ただし、締固め管理が可能な場合は、砂質土の基準を適用することができる。又は、設計図書による。</li> </ul>	
<p>29 コンクリートダム</p> <p>〔試験項目〕</p> <p>骨材の密度及び吸水率試験</p> <p>〔試験方法〕</p> <p>JIS A 5011-1～4</p> <p>〔摘要〕</p> <p>JIS A 5005（コンクリート用砕砂及び砕石）</p> <p>JIS A 5011-1（コンクリート用スラグ骨材－第1部：高炉スラグ骨材）</p> <p>JIS A 5011-2（コンクリート用スラグ骨材－第2部：フェロニッケルスラグ骨材）</p> <p>JIS A 5011-3（コンクリート用スラグ骨材－第3部：銅スラグ骨材）</p>	<p>29 コンクリートダム</p> <p>〔試験項目〕</p> <p>骨材の密度及び吸水率試験</p> <p>〔試験方法〕</p> <p>JIS A 5011-1～5</p> <p>〔摘要〕</p> <p>JIS A 5005（コンクリート用砕砂及び砕石）</p> <p>JIS A 5011-1（コンクリート用スラグ骨材－第1部：高炉スラグ骨材）</p> <p>JIS A 5011-2（コンクリート用スラグ骨材－第2部：フェロニッケルスラグ骨材）</p> <p>JIS A 5011-3（コンクリート用スラグ骨材－第3部：銅スラグ骨材）</p>	

新旧対照表（品質管理基準）

旧（令和4年10月）	新（令和5年10月）	摘要
<p>JIS A 5011-4(コンクリート用スラグ骨材—第4部：電気炉酸化スラグ骨材) JIS A 5021(コンクリート用再生骨材 H)</p>	<p>JIS A 5011-4(コンクリート用スラグ骨材—第4部：電気炉酸化スラグ骨材) <b>JIS A 5011-5（コンクリート用スラグ骨材—第5部：石炭ガス化スラグ骨材）</b> JIS A 5021(コンクリート用再生骨材 H)</p>	
<p>〔試験項目〕 塩化物総量規制 〔試験方法〕 「コンクリートの耐久性向上」</p>	<p>〔試験項目〕 塩化物総量規制 〔試験方法〕 「コンクリートの耐久性向上」 <b>仕様書</b></p>	
<p>〔試験項目〕 単位水量測定 〔試験時期・頻度〕 100m<sup>3</sup>/日以上の場合； 2回/日（午前1回、午後1回）以上、重要構造物の場合は重要度に応じて100m<sup>3</sup>～150m<sup>3</sup>ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められたときとし測定回数が多い方を採用する。</p>	<p>〔試験項目〕 単位水量測定 〔試験時期・頻度〕 100m<sup>3</sup>/日以上の場合； 2回/日（午前1回、午後1回）以上、重要構造物の場合は重要度に応じて100m<sup>3</sup>～150m<sup>3</sup>ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められたときとし測定回数が多い方を採用する。</p>	
<p>〔試験項目〕 コンクリートのブリー<b>ジ</b>ング試験</p>	<p>〔試験項目〕 コンクリートのブリー<b>ディ</b>ング試験</p>	
<p>30 覆工コンクリート (NATM) 〔試験項目〕 骨材のふるい分け試験 〔試験方法〕 JIS A 5011-1～<b>4</b></p>	<p>30 覆工コンクリート (NATM) 〔試験項目〕 骨材のふるい分け試験 〔試験方法〕 JIS A 5011-1～<b>5</b></p>	
<p>〔試験項目〕 骨材の密度及び吸水率試験 〔試験方法〕</p>	<p>〔試験項目〕 骨材の密度及び吸水率試験 〔試験方法〕</p>	

新旧対照表（品質管理基準）

旧（令和4年10月）	新（令和5年10月）	摘要
<p>JIS A 5011-1～<del>4</del></p> <p>〔摘要〕</p> <p>JIS A 5005（コンクリート用砕砂及び砕石）</p> <p>JIS A 5011-1（コンクリート用スラグ骨材－第1部：高炉スラグ骨材）</p> <p>JIS A 5011-2（コンクリート用スラグ骨材－第2部：フェロニッケルスラグ骨材）</p> <p>JIS A 5011-3（コンクリート用スラグ骨材－第3部：銅スラグ骨材）</p> <p>JIS A 5011-4（コンクリート用スラグ骨材－第4部：電気炉酸化スラグ骨材）</p> <p>JIS A 5021（コンクリート用再生骨材 H）</p>	<p>JIS A 5011-1～<del>5</del></p> <p>〔摘要〕</p> <p>JIS A 5005（コンクリート用砕砂及び砕石）</p> <p>JIS A 5011-1（コンクリート用スラグ骨材－第1部：高炉スラグ骨材）</p> <p>JIS A 5011-2（コンクリート用スラグ骨材－第2部：フェロニッケルスラグ骨材）</p> <p>JIS A 5011-3（コンクリート用スラグ骨材－第3部：銅スラグ骨材）</p> <p>JIS A 5011-4（コンクリート用スラグ骨材－第4部：電気炉酸化スラグ骨材）</p> <p><b>JIS A 5011-5（コンクリート用スラグ骨材－第5部：石炭ガス化スラグ骨材）</b></p> <p>JIS A 5021（コンクリート用再生骨材 H）</p>	
<p>〔試験項目〕</p> <p>単位水量測定</p> <p>〔試験時期・頻度〕</p> <p>100m<sup>3</sup>/日以上の場合；</p> <p>2回/日（午前1回、午後1回）以上、重要構造物の場合は重要度に応じて100～150m<sup>3</sup>ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められたときとし測定回数は多い方を採用する。</p>	<p>〔試験項目〕</p> <p>単位水量測定</p> <p>〔試験時期・頻度〕</p> <p>100m<sup>3</sup>/日以上の場合；</p> <p>2回/日（午前1回、午後1回）以上、重要構造物の場合は重要度に応じて100～150m<sup>3</sup>ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められたときとし測定回数は多い方を採用する。</p>	
<p>〔試験項目〕</p> <p>塩化物総量規制</p> <p>〔試験方法〕</p> <p>「コンクリートの耐久性向上」</p>	<p>〔試験項目〕</p> <p>塩化物総量規制</p> <p>〔試験方法〕</p> <p>「コンクリートの耐久性向上」 <b>仕様書</b></p>	
<p>〔試験項目〕</p> <p>テストハンマーによる強度推定調査</p> <p>〔試験時期・頻度〕</p>	<p>〔試験項目〕</p> <p>テストハンマーによる強度推定調査</p> <p>〔試験時期・頻度〕</p>	

新旧対照表（品質管理基準）

旧（令和4年10月）	新（令和5年10月）	摘要
<p>強度が同じブロックを1構造物の単位とし、各単位につき3ヶ所の調査を実施。また、調査の結果、平均値が設計基準強度を下回った場合と、1回の試験結果が設計基準強度の85%以下となった場合は、その箇所の周辺において、再調査を5カ所実施。材齢28日～91日の間に試験を行う。</p>	<p>トンネルは1打設部分を単位とし、各単位につき3カ所の調査を実施する。また、調査の結果、平均値が設計基準強度を下回った場合と、1回の試験結果が設計基準強度の85%以下となった場合は、その箇所の周辺において、再調査を5カ所実施。材齢28日～91日の間に試験を行う。</p>	
<p>31 吹付けコンクリート(NATM) 〔試験項目〕 塩化物総量規制 〔試験方法〕 「コンクリートの耐久性向上」</p>	<p>31 吹付けコンクリート(NATM) 〔試験項目〕 塩化物総量規制 〔試験方法〕 「コンクリートの耐久性向上」 <b>仕様書</b></p>	
<p>〔試験項目〕 コンクリートの圧縮強度試験 〔試験方法〕 JIS A 1108 土木学会規準 JSCE F561-2013</p>	<p>〔試験項目〕 コンクリートの圧縮強度試験 〔試験方法〕 JIS A 1108 土木学会規準 JSCE- F561-2013</p>	
<p>35 排水性舗装工・透水性舗装工 〔試験項目〕 フィラーの粒度試験</p>	<p>35 排水性舗装工・透水性舗装工 〔試験項目〕 フィラー <b>（舗装用石灰石粉）</b> の粒度試験</p>	
<p>〔試験項目〕 フィラーの水分試験</p>	<p>〔試験項目〕 フィラー <b>（舗装用石灰石粉）</b> の水分試験</p>	